

最近のマイクロソフトWindowsによる 女子学生へのソフト教育の影響

岸 紅 児

Soft Education of Girl Students under
the Influence of Recent Soft Ware
Kouzi Kishi

1. 社会環境の変遷とビジネスリテラシー

最近の女子学生就職状況の悪さは年と共に熾烈さを極めている、特にバブル経済の破綻から始まるリストラは製造業の円高による産業の空洞化が加わり、中高年の転退職と新規採用の抑制が顕著となってその先鋒として女子学生の採用減という現象で現れている。

特に女子学生は一般事務の補助者として採用されるケースが多く、これらの事務補助職がこの度の合理化や人員削減の対象となりその影響をもちに受けて女子大生は未曾有の就職難である。しかし、実社会ではオートメーションやOA【Office Automation】によって人手の削減が行われると共に男女の作業分担が大きく変わってきている。ロボットやコンピュータの影響である。この結果女子で出来る職種の分野が広がってきた。

従来男性の職場であった建築・運輸等の作業が自動化やコンピュータ等の省力化機器によってクレーンブローザー作業員・ダンプカー・バス運転者・図面設計者等である。また旅行業の添乗員【ツアーコンダクター】や住宅・機械機器の説明員【アドバイザー・カウンセラー】等である。

このほか事務や営業の分野でもパソコンや通信機器の進歩発達がOA機器の登場によって大きく環境を変えてきた、特にパソコンやワープロの影響は

ビジネスの改革をもたらした。

従来、事務や技術の分野では文書化やファイル・保存・計算・索引・連絡などのクラリカルな作業に必要とした副次的な作業が減少し、その結果中間管理者や事務補助者の仕事が減少した。

これらの事務環境の変化に対応するために職業訓練学校などにおいては次々と新たな科目を設けたり、大学生も大学教育の他、職業教育【ダブルスクール】を受ける等して社会や職場の変化に対応している。これらの実務教育の結果は各種の検定や資格取得となって現れている。

また、これらの就職難は大学院進学や海外留学の促進など専門的・社会経験蓄積など顕著である。

2. コンピュータとパソコンによる影響

コンピュータが20世紀後半社会に登場して計算機から情報処理の分野に利用され、80年代よりパソコンが登場し漢字処理が進みワープロ・パソコンが世間の一般常識として利用が始まった。

ハードウェアについては小型・高性能化が“ダウンサイジング”という言葉を生み、通信ネットワークはパソコン通信や電子メールとなって電話に次ぐ情報伝達手段に成長した。市場価格も誕生当時の百万円台から拾万円台と新機種が登場する度に3～50%価格が下降してノート型やパームペン入力手帳型等、携帯に便利となった。

更にIC【半導体】や光ディスク・CD-ROM・ICカード・DVD等の情報媒体の進歩も大きく機器の性能に寄与し、CRTや液晶ディスプレイの普及と共にペーパーレス時代をもたらした。

一方、印刷装置も当初の活字によるラインプリンタから漢字処理の出来るドット印刷機へと代わり更にレーザー静電印刷機となって文字の他、写真や図形処理が可能となり、更にカラープリンタも登場して利用範囲が拡大された。

ソフトウェアはコンピュータ時代のプログラム作業が著しく変化を遂げた。簡易ソフトやパッケージ化によって汎用ソフト時代となったことがパソコン利用を大幅に展開した。

ワープロに始まるソフトは表計算・グラフ・図形処理・データベース・DTP・通信等の汎用性のあるソフトウェアが多彩に登場してきた。特にソフトウェア開発を専門とする企業が台頭してコンピュータを制するのはハードメーカーでなくソフトウェアメーカーであると言われるようになった。

またファミコンより登場したゲームやホビーの世界も16ビット機から32ビット機へと画面の速さや画像の華麗さを追求してこれらのアミューズメントの世界がパソコンと結合した結果、シュミレーションゲームを生み、これに音声・音楽を加えてマルチメディア時代と言われるようになった。

3. パソコン教育とソフトウェアの現状

当校では87年頃よりコンピュータの知識がこれからの社会人には必須と考えてコンピュータの基礎知識と鍵盤操作実習を盛り込んだ学科『情報科学1』を88年度より四年制の大学で開始し、翌年短期大学でも開講した。両校とも1年生の基礎教養必修科目として1年生全員を対象としてそれぞれパソコン教室を設置した。

当時のハードは16ビット機で四年制大学のソフトは『ベーシック』を用いて簡単なプログラム演習からスタートした。短期大学は最初から『DOS文書』ソフトによるワープロからスタートした。当時コンピュータやパソコンを企業内部で全社的に使用しているのは大手企業中心でファイルの互換性から利用度の比較的多かった『DOS文書』を選んだ。

当時はパソコンといえばNEC・IBM・富士通等の機器、ソフトとしては『一太郎』が市販し始めた頃であった。当校は日本文学科と英米文学科の文系大学であり当時としては日本語ワープロより欧文タイプ教育に力を入れていた結果、英文ソフトとの互換性のあるIBMのハード・とソフトを採用した。

ワープロソフト『DOS文書』は文字入力と漢字変換の知識を通じてパソコンに馴染ませ『機械嫌いの女子学生』のキーボードアレルギー除去に有効であった、もともと文学や文字に興味を持っている文学部にはうってつけであり2年目から始めた『ワープロ検定試験』には最初から多くの参加者があり、毎年二百名前後の合格者を社会に送り出している。

『p.7、8-ワープロ検定試験実績表』……………参照

短期大学では2年目より実務社会に必要な計算・集計業務の知識習得として表計算ソフト『ロータス1-2-3』を2年生の選択科目として計算作表とグラフ作成を授業に採り入れた。また短時間ではあったがカード型データベースソフト利用の分類・選択・ソート等の情報検索や図形情報『花子』による作図実習などを行った。

しかし、日本文学科・英米文学科それぞれ前期・後期の半年間13～14回

の授業では、詳しい授業が出来ないので現在はワープロを中心とした

『1』一太郎初・中級コース……複雑な編集とDTP機能中心のワープロ教育

『2』一太郎初級とロータス1-2-3……ワープロ編集と表計算とグラフ作成・計算結果検索教育

の2つのコースを設けて2年生に選択授業としている。

この間パソコンのハードは毎年新型モデル登場、ソフトはバージョンアップを繰り返して次々と更新されていった。

これら変化や進歩の激しいパソコンの世界で教育を行う立場として世の中の進歩や改革に対してどのように対処すればよいか？

言い換えればハード・ソフトの切り替えは如何にすべきか？また、社会全体のこれらのニューメディアの浸透度はどうなっているのか？これらの判断や検討に明け暮れていると言っても過言ではない。

先ずハードではパソコンの耐用年数から4～5年の償却・リース年数によって機器の更新を行い、機器の取り替えに付随してソフトのチェンジ乃至はバージョンアップを行っている。

ソフトもアプリケーションとOS【Operating System】の2面にわたって検討しなければならない。

ソフトウェアも時代の流れによって市場の流通に変化を来しつつある。

特に近年猛烈な勢いで市場に定着し始めたソフトとしてマイクロソフト社の【Windows】がある。Windows=米国のビル・ゲイツ氏によって興されて瞬間に欧米のコンピュータ業界を席卷してわが国のコンピュータソフト分野に君臨してきた。従来なかなか超えられなかったコンピュータメーカー機種別の壁を乗り越えてあらゆる機種に使用され、マウスを用いる使い勝手の良さが歓迎されて多くのユーザーにパソコンの使い方を容易ならしめたものである。WindowsはIBMの機器と共にパソコン用OS=MS/DOSの世界を相互に補完しながら拡大して使用する階層を増やし、更に今年8月Windows95を発表して全世界のパソコンを制覇しつつある。

一方では汎用ソフトの世界も様々に変化をもたらしている。

ワープロソフトの他にも『表計算』・『データベース』・『図形処理』・『通信ソフト』・『DTPソフト』・『CADソフト』等のパッケージが市場に溢れている。

ソフト制作販売している企業も数多く登場して競い合っている。

これらパソコンメーカーのWindows に対する競争は年と共に激しくなっ
て価格・使い勝手・浸透度【ユーザー】等激しい争いはまさにソフトウェア
ウォーズと言えるのではないだろうか？

パソコン月刊誌の『ASAHIパソコン』95年2月1日号にバージョン6
の対決……として『一太郎』『ワード』『ワードパーフェクト』3つのWi
ndows 用ワープロソフト徹底比較の記事が14頁に及んで特徴・かな漢字
変換・校正機能・装飾機能・表グラフ作成・文書スタイル機能・カスタマイ
ズ機能等の項目について詳細に紹介されていた。

『一太郎』……………ジャストシステム社 これらはいずれもWindows
『ワード』……………マイクロソフト社 適合のパッケージソフトとし
『ワードパーフェクト』…ノベル社 て現在市販されている。
『アミプロ』……………ロータス社

ワープロソフトは多分に利用者の嗜好が重要視されるのでこれらの比較論
がどの程度重視されるかは読者によって評価が分かれるがいずれにせよ、ソ
フトの選択は自由出来る環境が醸成されている。

これらパッケージソフトの競合はビジネス以外のソフトにも及び、【3D
ゲーム】・【シュミレーションゲーム】等のマルチメディア時代と呼ばれる
双方向通信を目指す情報機器のソフトにも展開する様相を呈している。

4. 女子学生の教育に及ぼすパソコンの影響

冒頭に述べたようにこれから社会にデビューする学生達にどのようなコ
ンピュータリテラシー又はオフィスリテラシーを学ばせればよいか悩んだ末、
北九州・福岡の大手・中小の企業に訪問又は問い合わせして得た結果を要約
すると次のようになった。

株式1部上場会社=大半が Windows・ワード・エクセル・アクセス
マイクロソフト系
2部・中小企業 =殆どが MS/DOS・一太郎・ロータス1-2-3
ロータス/ジャスト系
個人企業自由業 =混然状態 教育・印刷出版 にMachintosh・NEC・
その他 NEC・アップルコンピュータ系
調査した範囲が限られるので断定は出来ないが北九州市や福岡市のめばしい
企業への問い合わせた結果である。

以上の現況からビジネス系としては『Microsoft Office』が主流になるかなと考えていた矢先に昨年12月マイクロソフト社より『キャンパスプラン』が発表された。

『キャンパスプラン』は全国の大学・短大を対象として1キャンパス当たり100本の『Microsoft Office』を廉価で提供するもので、大学と短期大学の教育目的に使用する限り、ライセンス契約をマイクロソフト社と契約して毎年継続契約をしながら使用できるシステムである。Microsoft Super Officeは『ワード』『エクセル』『アクセス』『メール』『パワーポイント』を包含しビジネスの殆どの分野をカバーしている。

マイクロソフト社の戦略はこれから社会人となる学生達を将来のユーザーとしてターゲットを絞り込み大学・短大の正規ライセンス契約に網を打ったのではないだろうか？

これからの社会やビジネスの世界に大きく影響する『マイクロソフト』を中心とした教育が現状におけるベストかなと考えた。

しかし、今日まで学内で蓄積した多くの資料や数々の教材が『DOS文書』や『一太郎』・『ロータス』等で占められているため一朝一夕では修正できず年度・学年毎に更改し始めている

取りあえず1年生より『ワード』によるワープロ教育（入力と通常の編集機能）

2年生より『エクセル』による表計算とグラフ作成（計算・編集DTP機能）

これらの汎用パッケージソフトをマスターしておけば卒業後各種の企業において様々なソフトに出会っても不自由なく世渡りが出来る。

以上

参考文献図書……ASAHIパソコン95年2月1日号

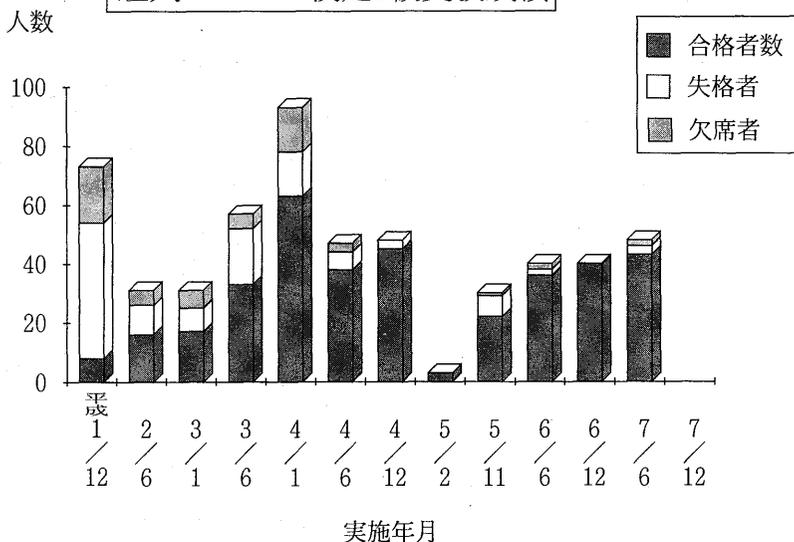
最近のマイクロソフトWindowsによる女子学生へのソフト教育の影響

ワープロ検定試験 3級

梅光女学院大学 短期大学部

試験実施	A	B	C	A+B+C=D	A/D%
	合格者数	失格者	欠席者	申込み合計	合格率
平成1/12	8	46	19	73	11.0%
2/6	16	10	5	31	51.6%
3/1	17	8	6	31	54.8%
3/6	33	19	5	57	57.9%
4/1	63	15	15	93	67.7%
4/6	38	6	3	47	80.9%
4/12	45	3	0	48	93.8%
5/2	3	0	0	3	100.0%
5/11	22	7	1	30	73.3%
6/6	36	2	2	40	90.0%
6/12	40	0	0	40	100.0%
7/6	43	3	2	48	89.6%
7/12					
	364	119	58	541	67.3%

短大ワープロ検定3級受験成績



最近のマイクロソフトWindowsによる女子学生へのソフト教育の影響

ワープロ検定試験 2級

梅光女学院大学 短期大学部

試験実施	A	B	C	A+B+C=D	A/D%
	合格者数	失格者	欠席者	申込み合計	合格率
平成2/11	8	2	0	10	80.0%
3/7	11	1	1	13	84.6%
3/12	7	5	1	13	53.8%
4/7	20	2	2	24	83.3%
5/1	15	2	3	20	75.0%
5/2	29	9	0	38	76.3%
6/7	7	9	4	20	35.0%
7/1	17	12	1	30	56.7%
7/7	19	15	3	37	51.4%
8/1					
	133	57	15	205	64.9%

